

## 第 9 回経済建設常任委員会 概要報告

年 月 日	令和 3 年 7 月 14 日	会 場	第 1 委員会室	案 件	委員会所管事項について
出席委員	山田典幸、佐久間誠、塩田昌彦、今村芳彦、三浦勝秀、富岡達彦				
委員外議員					
欠席委員					

### 【報告事項】

(経済部)

冒頭に、臼田経済部長から名寄振興公社の裁判について報告があった。去る 7 月 2 日旭川地方裁判所で第 9 回の口頭弁論が開かれ、証人尋問が行われた。

原告側から前支配人、前代表取締役が出廷した。今回の弁論で結審し、判決期日は本年 10 月 1 日となったことなどの報告があった。

#### 1) 「名寄市商工業振興基本計画（仮称）」に係る答申書について

令和 2 年 2 月 20 日付けで名寄市中小企業振興審議会に諮問していた「名寄市商工業振興基本計画（仮称）」が、「名寄市はばたく中小企業基本計画」（案）としてとりまとめられ、本年 6 月 25 日に答申を受けたこと、またその概要について説明を受けた。

また、地域全体で中小企業を支える意識を醸成するために条例で定めることが適切であるとの付帯意見がつけられたことから、対応を庁内で議論、存在意義を再認識するものとして条例化を進めたいとの説明を受けた。

### 【質疑】

Q: 条例化に向けたスケジュール感についてどのように考えているか。

A: 今後条例案を作成し中小企業振興審議会へ説明、確認後、常任委員会へ諮り、その後パブリック・コメントを行う。その結果を改めて常任委員会に返す。第 3 回定例会には条例提案し、来年 4 月からの施行を目指したい。

Q: 基軸となる産業ビジョンと総合計画との整合性をとり、基幹産業である農林業と連携し、6 次産業化も考えていくこととなると思うが、産官金連携なよる経済サポートネットワークや中小企業振興審議会とどのような議論を進め、条例をより有効的なものにするか。

A: 基本的には中小企業振興審議会で議論していただくことが優先的なことになる。産官金連携なよる経済サポートネットワークからは市内経済の状況を踏まえた意見をいただくので、それらの観点から審議会の中に諮っていただき、条例案を確認いただく。産業ビジョンのようなものは、この計画がビジョンに近いものだと思う。施策をフォローアップする形で審議会の中で報告し、その成果を確認していきたい。

Q: 条例を使いやすくしていく中で、中小企業振興条例の施行規則の様々な事業を洗い直しながら全体的な改定とするのか。

A: 中小企業振興条例に基づく支援メニューは使いやすい時代のニーズに合ったものへ

ゼロから見直す。より良いものになっていく。

Q:検討部会、審議会ではどのような意見が出され反映されてきたか。また、市民の理解と協力を広げ、購買意欲を増すようにするための方策は。

A:基本理念では「新しくチャレンジするようなことを後押ししよう」との意見や、「財の域内における循環と域外からの獲得による経済活性化」は大事な視点であるとか、「中心市街地だけでなく、市内経済全体の賑わい創出が大事だ」という意見などをいただいた。審議会でもダイジェスト版の制作や、小さな子どもたちへの説明の機会などに努めていきたい。

## 2) その他

### ・王子マテリアの雇用対策について

ハローワーク名寄で、工場稼働停止後に地元に残り転職を希望する人を支援するために7月8日から求人確保の取組みを始めた。また、名寄商工会議所では、本年5月に会員企業を対象に実施した従業員の雇用意向調査の結果を基に、7月8日に工場従業員受け入れ可能と答えた事業者に対して、ハローワーク名寄への求人の登録を呼びかける文書を発出した。対策本部としては再雇用を希望する従業員の方、求人する地元事業者においては、ハローワークに相談いただきたい。

### 【質疑】

Q:雇用対策で、王子で働いている方と名寄市の企業のマッチングを行う中での課題や問題点について伺う。

A:なかなか情報が入ってこないこともあり、どのぐらいの方が名寄に残るのか、退職されるのかつかめない。総合相談窓口を開かせてもらっているが、そこに相談いただければハローワークを紹介することができる。商工会議所のアンケートで採用可能と回答いただいた事業者に、ハローワークへの求人登録をしていただく流れを作っている。資格、年齢などをマッチングできれば非常に良い。

Q:雇用に伴う助成について、市として制度をつくり名寄に残っていただくよう対策はできないか。

A:我々もできることはないか探っている所で、雇用を促進するような対策ができないか検討したい。

### ・地域おこし協力隊について

7月12日に観光業務の地域振興支援員として地域おこし協力隊1名を任用した。観光ガイドとして期待し募集した。任用した方は、森和季氏、23歳。今後は、なよろ観光まちづくり協会において観光情報の取得、体験観光商品の企画、販売、運営などに携わり、観光ガイドとして育成を図る予定である。

・委員から「ヒグマの出没状況について」質問があり、臼田経済部長から概略について出没状況や対策の概略について報告があった。

以上で第9回経済建設常任委員会を終了した。

報告者 経済建設常任委員会 副委員長 佐久間 誠